

## 将来的新エネルギーについて



谷津 由尚

**質問** 薩摩川内市は、エネルギーのまちとして、将来的な新エネルギーとのバランスを図らねばならない。今後、太陽光、風力、バイオマスなど、新エネルギーの事業の定着、事業主に対する最小限のリスクの在り方、そして雇用の創出までのシナリオを市として明確に作成しておく必要があるが、どう考えるか。

**答弁** 現在、国の補助事業等が実施されており、この補助制度について積極的に情報提供し、事業者自体が風力発電、太陽光発電を事業化しやすいようなサポート体制を本市が整えていく必要がある。また、太陽光・風力発電の導入については、運転開始後の雇用は、そう多くは見込めないのが現状である。ただ、バイオマス事業については雇用が見込まれるようであり、民間主導のもと、市としてサポート体制を組む方法を考えている。原子力発電所だけではなく、クリーンエネルギーのまちとしての都

市イメージを高める方法を考えていきたい。

## 女性の健康、少子化対策について



中島 由美子

**質問** 細菌性髄膜炎は、発症初期は発熱・嘔吐など風邪に似た症状を示すため診断が極めて難しく、発熱後、一、二日で亡することもあり、また、罹患者の二十五％に運動障害等の後遺症が残る、乳幼児にとつて恐い病気である。昨年十二月からワクチン接種ができるようになったが高額である。しかしながら効果の高いワクチン接種なので、公費助成ができないか。

**答弁** 少子化対策は本市の重要な施策と位置付けており、子供を安心して育てる環境にしたい。細菌性髄膜炎は小児にとつて最も重篤な感染症であり、Hibワクチンの接種が最も有効な手段である。接種についての公費助成は、少なくとも来年度は鹿児島市並みの助成としたい。伊佐市は全額公費負担ということであるが、そこまでは厳しいのではないかと考える。

## 水害対策について



山之内 勝

**質問** 九州で過去最大規模の激特事業が川内川、中・上流域で実施されているが、この激特事業の進展に伴い、下流域特に市街地付近河川堤防への急激な負荷の増大が予想されるが、市民の生命財産を守る立場の市長として、水害防止の観点からどのように対応されているのか。

**答弁** 平成二十二年完了を目指し進められている。河川激甚災害対策特別緊急事業や行われている、川内市街部改修の大小路地区については、今年度から二年かけて向田地区の整備を予定していることもあり、着手時期が遅れていることは事実である。国土交通省からは、大小路地区は今年度から事業に向けての諸調査等を行い、速やかに事業化に移行できるように事務手続を進めていきたいとの説明を受けている。

## ゴールド集落（限界集落）の活性化プランについて



古里 貞義

**質問** 市長自らゴールド集落の中に入り、聞き取りを行っていると思うが、ゴールド集落のイメージをどのように描いているか。また、今後どのような方策でゴールド集落を生かしていくつもりなのか。

**答弁** ゴールド集落は、相互扶助を維持しつつ、集落外の住民との生活交流などにより、本来有している地域の力を再び創造し、活力と豊かさを感じられる地域づくりを目指す地域にしたいということ定義付けようと考えている。人口減少や高齢化から派生する諸問題を解決することは容易なことではないが、現在、コミュニティ課を中心に企画政策課・行政改革推進課等と連携をとりながら、課題等の把握を行っている。今後、ゴールド集落の再生条例（仮称）を制定し、その中で支援していかないか考えているところである。